# 「日本の青空」試写会感想

□平和憲法を守ろう！！
□とても感動しました。多くの人に観てもらいたいです。
□鈴木安蔵について初めて知りました。日本国憲法について改めて勉強します。
□ありがとうございました。
□いろいろな人の思いが詰まっている憲法。いろんな人と一緒に守っていきたい。
□憲法作成に女性の立場で意見を取り入れて下さったという事は発見だったと思っています。
□良い映画でした。平和を守らなければならないと強く思いました。
□年寄りが見るのではなく、カンパを集め若い人に見せてあげたい。
□ありがとうございました。多くの人に見ていただきたいです。
□憲法の成り立ちがわかってよかったです。
□現憲法がGHQの押し付けでなく、日本人の為に作ったことに誇りにして守っていきたいと思います。
□実行委員の皆さま企画されたことに敬意を表します。一人でも多くの方にと努力致したいと思います。
□２回目になりますが、前回以上に感動しました。是非友人に勧めたいです。
ありがとうございました。
□鈴木安蔵氏の著作を学生時代に買って充分読まないままダンボール箱につめたまま棄てるところでした。近く開いて、この映画のちらし（チケット）とともに他の人にみせて、映画を薦めたいと思いました。
□日本国憲法の（？）の真実はよくわかったが、内容が硬すぎるように感じた。
□「母べえ」も見ましたが、こちらも大切な映画、大変感動。
□たいへん勉強になりました。とても感動し、涙が出ました。ありがとうございました。
□たくさんの方に見てもらえるようにしましょう。実行委員の皆さん、ご苦労さまです。
□日本国憲法はGHQによる「押しつけ憲法」ではなく、そのルーツは日本人そのものにあったということがよく理解できた。改めて現憲法を守ることの大切さを痛感した。
□戦争ほどおろかなものはない・・・。それに費やすエネルギーを、他に向けるところがいっぱいあるのでは・・・と思いました。憲法ができるまでの関係者たちのエネルギーも加えて。
□暗い気持ちで見はじめた私だけど、いつのまにか見入っていた。当たり前のように考えていたこと、知っていたつもりの憲法のこと、でも実はよくわかっていなかったことが心にしみてきた。友にも話そう！主人にも！
□GHQが作ったのかなと思っていました。ずーっと。この映画を見るのは２回目ですが、飽きるどころかより深く理解できてよかったです。男女平等とあれは何だったかな・・・平和のためにとても大切なこと・・・本上映の時には、そこを**絶対**聞き逃さないようにしたいと思っています。１６日の朝（試写会の翌日）「１０枚売ってきました」と入金に来られた方がいて、「もう！」と驚きました。「すごい映画だった」との感想でした。
□高校、大学の授業に必修教材ぐらいの気持ちでこの映画を見せてもらえたらと思いました。

# 「日本の青空」試写会感想

６月の映写会には、若い人をいかに集められるかが課題ですね。
□今まで日本の憲法は日本人を無視し、GHQのみで作成されたものと思っていました。今憲法改正が叫ばれていますが、すごく考えさせられた思いです。私は憲法第９条の改正は反対したく思います。
□GHQの草案が、鈴木安蔵氏を中心とする日本人グループによって起草されたとは知りませんでした。GHQの押し付け色が濃いと誤解していました。ただ憲法の改正については、時代の変わりもあり、そろそろ必要であろうかと思います。
□前半、あまり面白くなかったが、途中連合軍とのやりとりするあたりから話の展開がよくなる。また「母べえ」よりも話に内容があり良かった。現憲法が日本人の試案を大いに参考にしたというのは知らなかった。
□学校では決して教えられない、現日本国憲法の草案について初めて知ることができ、大変感激しました。学生の年代の人たちにこの映画を見てもらいたいと思います。
□憲法がどのようにして決定されたかが、わかりやすく描かれていました。また９条を守ることがどれだけ大切かを、今の若い人達にもこれをみてわかってほしいいと思います。６月にはこれからの世代をになう若い人にもすすめて見せたいと思います。
□良い憲法（特に９条）だけれど、アメリカの押し付けなのだと思っていました。日本人の国民のもう戦争はしないという決意や、もっと人間らしく生きたいという想いがいっぱい詰まった憲法だったのですね。大切にしたいと思いました。
□日本国憲法が誕生するまでにこんなすごい苦労があったことを初めて知りました。とてもよい映画だったと思います。こんなに苦労してできた憲法を守らなくては！！改めて憲法を読み直し勉強したくなりました。
□９条の大切さは良くわかっているつもりでしたが、映画を観て作った方々の苦労がわかり、９条の大切さもよくわかりました。子供たちにも本上映を見るよう勧めます。
□残念ながら映画の製作そのものについては、この種の社会的問題を扱った一群の映画の枠を超えるものではなかったように思いました。ただ憲法が草案されていく過程で、自由民権運動以来の日本における民衆の運動がつかみとってきた成果とでもいうべきものが、大きく関わっていたことを知り、それを通してイメージを大きくふくらませることができたことは幸いでした。『９条』のみに光をあてるよりは、憲法のもつ、広がりと可能性とに注目できる大きな意味をもつものと思います。
□上映後、招待者全員に電話し、感想を聞きました。嬉しいことに本上映にもう一度見にいきますという方一名あり。憲法がアメリカに押しつけられたものでないことがよくわかったという方が数名おられました。一方役員の方々の反応はすばらしく、六月の本上映に向かって心をひとつにして取り組もうという気持ちがあふれて伝わってきました。自分が主人公になって働くことの大切さ、楽さがひしひしとしみ込んできました。途中からでしたが、観たのは２度目で細かいこと（最後の場面で司法試験に挑む沙也可の恋人がカリスマ弁護士伊藤真氏の本を小脇にかかえていたetc・・・）に気づかされ、何度も観てみたい映画だと思いました。あの時代にGHQのラウエル中佐が米国で鈴木安蔵の論文を読んだというのは、驚きでした。（本日とりあえず計８枚券売れました）　＊集英社新書「憲法の力」一読お薦めし

ます。
□六十年前の懐かしい映像を、楽しく拝見しました。憲法（明治）が改められ、今の憲法ができた。六十年間戦争に巻き込まれず平和を楽しまれたのも、その賜物です。日本人は国家の危機を何度も昔から乗り越えてきた運のよい国です。明治時代も、植民地にもならず奇跡的な国です。今の憲法も、一方的に政府が決めないで、民間人とアメリカとの考えを平均的に作られた大変よい憲法だと思う。あの混乱期によくこの様な人達がいらっしゃったと思いました。アメリカだけが決めたものでなく、立派な日本人も多くいてできたものでした。そこが他の国々と違う、平和を愛し中庸を守るのが日本のよい所だと思う。
□戦争を体験している私は、映画を観る前は暗いイメージを持って臨みましたが、映画自体は明るく少し拍子抜けしました。私は７０歳を越えた者ですが、この年になるまで日本国憲法がこの様にして作られたと、初めて知りました。そしてその中に日本人がいて、日本のことを考えて作ってくれたことを嬉しく思います。
□「母べえ」と比較して「日本の青空」の方が良かったが、もう少し観る者を引きつけるものがあってもよかったと思った。憲法を作るにあたり、日本人の草案が取り入れられたとありますが、全体の何％ぐらいだったのか、そういったことも言っていたら、より納得できたと思った。
□守るべきことは何か。一番大切なことを教えてくれた。戦争体験のない私には是非日本の人皆で観たい映画だと思った。特に若い人達に関心を持って平和って何かを考える機会になるといいなと思った。
□初めのところは話が難しくて、なかなか理解できなかった。人にもどう話しして宣伝していいのかわからない。きっと高度な頭のいい人達には、適した映画だろうと思う。今までに出会ったことのないような映画でした。日本国憲法の９条がどうしてできたのか、部分的には参考になる映画でした。ありがとうございました。
□松本国務大臣、白州次郎の力をもっと強調してもいいと思うが、最後にうまく表現していた。記録映画としてはたいへん素晴らしいものが残ったと思います。構成も若い世代向けのものもあり、判り易いと思いますが、教育上、若者の言葉はもう少しチェックした方が良かった。後々残る作品としては、品位を下げない方が良かったと思いますが私の意見、監督は時代背景を重んじられたか、いろんな資料の角度からの考察として、黒部市の六天出身、東大法科卒、アメリカ他外交官出身で、日本国憲法草案に関わった島静一氏、９０歳台でまだ現存、にも話を聞くと良いのでは。・・・冊子を出版しておられます。（山本）
□鈴木安蔵という名は知らなかったので、これは事実かなあと半信半疑だった。映画を観てから、そうかも知れないと思うようになった。アメリカが、日本と戦争をする前に日本のことを詳しく勉強した。その中に鈴木さんの本があったということは想像できる。またそれをもとにして、短期間で草案を作ったということも想像できる。もう少し詳しく調べてみたい。
□○○さんから、案内を受けました。六月の上映会には多くの市民に PR して鑑賞に誘いたいと思います。お世話していただいた皆様のご苦労を感謝します。
□憲法改正の動き（私は改悪だと考えますが）によって、私達は憲法について考える機会、学べる機会を作ってくれました。自分たちの体験、苦労を新しい憲法に生かして、人間らし

い生活が送れるよう考えた人がいたことは、私たちにも大きな力を与えてくれます。女性の権利を確立したベアテ・シロタさんの言葉、鈴木夫人の言葉には「そうだ、そうだ」と共感し、涙が溢れ出しました。命を育む女性は絶対戦争に反対します。憲法９条、２２条、人間らしい生涯を送るために、心に深くとどめて、平和な世界を目指して生きるために、この映画を多くの人に観てもらいたいです。

□先日は、スタッフの皆さまお疲れさまでした。「日本の青空」、感動する場面が少なく心に響かなかったので、残念だなと思いました。ただ私が座った隣にたまたま知り合いの方がいらっしゃって、その方のことを考えた時に、こういう平和を願う映画は大事にしなければならないと思いました。その知り合いは、大陸引揚者で、そのお母様は彼女を含め３人の子を連れて、命からがら中国から帰って来られた方だったことを。そのコバルトブルーのセーターは、そのお母様が編み、図も見ずサクサクと手編みされたものだったのを、私は覚えているのです。映画が終了後、静かな間が生まれたのですが、その時先陣を切って拍手をしたのは、彼女でした。別の意味でこういう機会は、必要だと思ったわけです。

□ふつう憲法と向き合うなんてことは、学校の社会の時間でしか考えられないが、この映画で考えさせられた。あの大きな犠牲をともなった敗戦の中で、戦争は二度とやってはいけない。

□国民が主権者、男女平等など人権の尊重の理念のもとに、日本人自身の手でつくられた憲法草案が、現憲法の土台になっていることを知った。やはり驚きだった。平和や人権が危なくなっている今だからこそ、この憲法を生かし現実をよく知っていかなければならない。そして世界に向けて行かねばと思う。多くの人々に観て、考えてほしいと思った。

□戦後の「日本国憲法」が出来上がったプロセスが、トータルに追求されていた。私は、社会科の教員で、政治経済の授業をしてきたが、リタイアして時間が経っていただけに、新鮮に感じられた。鈴木安蔵氏は、治安維持法違反第１号ながら、戦後憲法研究会をまとめるのに天皇制存続には、穏健な姿勢をとっていたことがわかった。また憲法研究会として、軍事条項を空白にしていくことを決めたことから、9条に相当する部分がなかったことの経過がわかったのもよかった。

□現憲法が制定された過程が、ていねいに語られていて良かった。押し付けられた憲法だから変えなければならないと言う改憲論者の言い分は、何も知らないでいると「そうかな？」と思ってしまうようだが。より多くの人にこの映画を見ていただいて、日本国憲法の持つ重さ（特に九条）を自分達一人一人の誇りとしたい。

□音量が大きすぎて、聞き取りにくかった。

□映画の内容が少したりないように思えた。

□映画の最後に出てくる協力者の名前を、最後まで見たかった。

□日本人ならこの映画を一度は、必ず見た方が良いと思う。帰ってから鈴木安蔵をインターネットで調べたら膨大な数の説明が書いてあった。

□白州次郎をとり上げたNHKスペシャルは見ていたので、今回、鈴木安蔵の物語を中心とした憲法草案の成り立ちが見られて良かった。

□試写会の準備が万全であった。スムーズに出来て良かった。女性パワーここにあり！

# 「日本の青空」試写会感想

□思っていたより見やすい映画だった。より多くの皆さんには見てもらいやすい内容だった。若い女性ジャーナリストを通しての映画で、良いと思った。
□中味はとても勉強になった。もう一度見たい。なるべく若い人にも見てほしい。
□私自身の中で興味がたくさんあり、期待に胸がふくらんだ。
□引き揚げ者の人から、いい反応の言葉をいただいた。
□草案の中味が現憲法の何％くらい占めていたのか知りたい。
□日本の憲法がどうして出来たかが、この映画をみたら全般的にわかると思う。憲法研究会では、軍事の所は空白にしていたことを知った。
□天皇制に対してアメリカは天皇を残すことにしたかったので、天皇制と９条をセットにしたのでした。仕方ない。
□若いジャーナリストが図書館でいろいろ調べてきたことが良かった。
□鈴木安蔵が主人公でよかったと思う。
□GHQ の憲法策定のところには、アメリカの優秀な弁護士など、生え抜きのメンバーがそろっていたので、それらの人々によって最良なる憲法となった気がする。もちろん憲法学者の鈴木安蔵はそれ以前よりアメリカでは知られていたこともあり、憲法研究会の作った草案の評価は高かった。GHQ でも「その草案はとてもよく出来ているし、民主的だ！！」と評価。
□この映画を見て、GHQ の押しつけでなく、日本人が主として考え作られたことを知っただけでも良かったと思う。
□難しかった。「大東京空襲」と抱き合わせて皆さんに薦めていきたい。2～3 回見たらいいと思った。
□映画の前半での硬い、暗い、難しい局面のあと、若手のジャーナリストと恋人が出て来て、ほっとなごんだ空気になり、良かったし、若いチャラチャラした恋人も、最後には自分も弁護士を目指して法律を学ぼうと決心していく姿がよかった。若者への影響も大きいこと嬉しいです。
□映画を見たけど戦争を知らないので、もっと勉強していきたい。
□鈴木安蔵の妻が「女に戦争のことを言わせたら誰でも戦争には反対すると思う。我が子を戦場には送らせたくない！！」と言ったことと同様にイスラム教では女に教育を与えると戦争ができなくなるので、女に教育を与えないという。（イスラム原理主義）
□真珠の首飾りを見ているので、GHQ が作ったとばかり思っていたので映画を見て違うことを知った。
□日本国憲法は GHQ が作成したのではなく、日本の憲法学者が中心となって作成されたものをもとに作成されたものと知り、深い感銘を受けた。主権在民、男女平等、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利等、民主的で崇高な精神を盛り込んであることに感動しました。第２４条のベアテ・シロタさんのあの場面では涙が出ました。特に女としての立場から！！